

2007年度は循環器科を主として内科全般を受け持つことになった楠元医師が入職したことが、2007年度のおおきな出来事であった。

しかしながら、済生会熊本病院の循環器科の医師減少が厳しく、残念ながら熊本病院からの出向が厳しくなり、常勤としての出向が中止となったため、結果的には庄野と楠元医師の2名体制となった。幸い、熊本病院から本田俊弘副部長を火曜日に応援に迎え、外来およびペースメーカー植え込みなどを担当された。

循環器科の医師が担当した入院患者は577名、うち循環器疾患が166例であった。

主な疾患の内訳は、心不全62例、不整脈32例、急性心筋梗塞21例、狭心症14例、急性大動脈解離3例、その他の血管疾患18例であった。

救急体制の常時維持が困難となっているため、急性心筋梗塞や狭心症は直接、熊本病院を受診してもらった結果、減少したが、心不全やASOなどの高齢者にみられる疾患が増加した。

主な循環器疾患の内訳

急性心筋梗塞	21
狭心症	14
急性大動脈解離	3
その他の血管疾患	18
心不全	62
不整脈	32
肺高血圧症	4

2007度は、熊本病院の応援で、10例のペースメーカーの植え込み（交換を含む）を行った。循環器系の主な検査は表に示す。

循環器検査件数

心エコー	1,775
負荷エコー	151
トレッドミル	116
ホルター	178
頸部血管エコー	451
下肢血管エコー	367
ABI	632
心臓CT	35
血管CT,MRI	127

その他、病院敷地内禁煙を2006年度から開始しており、2007年度には禁煙外来を開始した。まだまだ症例数は少ないものの、禁煙成功例も徐々に増加している。